

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	ひとり親家庭福祉推進事業	会計	一般会計	事業No.	151	施策順No.	36-013
		事業種別	政策・その他	予算科目	3-2-3-10-1		
政策	3 健やかに安心して暮らせるまちづくり			課等名	子育て支援課		
施策	36 生活困難者の自立及び支援			事業期間	開始	終了	

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	・母子・父子・寡婦家庭						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		ひとり親家庭福祉の会に入会世帯	434	384	344	290	350	
	意図	・交流・親睦が図られる ・ひとり親家庭の福祉の増進が図られる。						
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	ひとり親家庭福祉推進事業への参加者数	150	168	150	150	160	190	A
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】		ひとり親家庭の事業に参加した方が会員の5割を超えた。事業の意図が伝わったと考える。						

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	<ul style="list-style-type: none"> ・事務処理 ・児童扶養手当電算処理委託 ・親子の集い、講座等の実施委託 ・死別母子・父子家庭慰謝激励見舞支給 等 <参考>細々目名:ひとり親家庭福祉一般経費 		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	会議旅費、事務消耗品(児童扶養手当関係、母子・父子家庭等)集い事業、講座事業の実施(委託) 死別母子・父子家庭慰謝激励見舞 臨時職員 1名増(保育係からの配置変更による計上科目変更)	会議費 集い、講座 家庭慰謝激励見舞	4事業 23人
23年度実施計画	会議旅費、事務消耗品(児童扶養手当関係、母子・父子家庭等)集い事業、講座事業の実施(委託) 死別母子・父子家庭慰謝激励見舞 臨時職員 2名	会議費 集い、講座 家庭慰謝激励見舞	4事業 19人

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項
	国庫支出金					
	県支出金					
	起債					
	その他					
一般財源		5,389	5,177	6,379		
計(A)		5,389	5,177	6,379		
正規職員所要時間						
臨時職員等所要時間						
人件費計(B)			0			
トータルコスト A+B			5,177			

4 事業に対する市民や議会の意見

・母子家庭等は経済的理由から、遠方へ旅行やドライブに参加したり、教養講座に参加できる機会が少ないため、事業参加者の中では、母子福祉の充実の観点から、継続を望む声が多く聞かれます。

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	生活に困っている人が自立した生活を送ることができる	施策の成果指標又はムトス指標	母子家庭の自立した数
この事務事業は施策の目的達成にどのよう に貢献しましたか	4年間の振り返り	経済的に困窮した母子家庭等に対して、レクリエーションの機会の提供や母子会活動を通じて、自立支援に寄与した。		
	後期に向けた課題	ひとり親家庭福祉の会の独立化。事務局依存体質の打破。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫を してきましたか	4年間の振り返り	ひとり親家庭の方に関係事業に参加してもらえる働きかけを広報等で行った。		
	後期に向けた課題	ひとり親家庭のニーズを元にした施策づくり。就活、子育て、住宅の3本柱。		
コストを削減するためにどのような工夫を してきましたか	4年間の振り返り			
	後期に向けた課題			
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	ひとり親家庭の福祉に関与することは適切		
	後期に向けた課題			
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を発揮するために、行政はどのような働きかけを してきましたか、又は、配慮してきましたか	4年間の振り返り			
	後期に向けた課題			
全体を通じて	4年間の振り返り	ひとり親家庭の増大に伴い、ニーズに沿った活動を展開してきた。		
	後期に向けた課題	若年母子等のニーズに応える福祉事業の計画が必要。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------